令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属：スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格：専任講師
氏名：田中　光輝

研究課題名	相撲競技の立ち合いの間合いについての研究
研究目的及び研究概要	研究の背景 相撲競技の競技力向上に欠かせないのが、立ち合いであり勝敗の重要なポイントとされている。審判の心得に「相撲の立ち合い」は、行司という第三者によって、客観的に立ち合うタイミングが提示されるが、両方の選手の相互の主観的な「意」（思い）の一致。「阿吽」の呼吸で立ち合うのが主である。お互いの前にある仕切り線に両手をついて「はっけよい」の合図の瞬間が取り組みスタートであり、お互い仕切り線で向き合い、取り組みの姿勢に入った「間合い」について、相撲競技の競技力にどのような影響力があるのかを研究する。 研究の目的 相撲の試合の流れは、仕切りから始まり、相手との間合いとタイミングから、両者の立ち合いから取り組みが成立して勝敗が競われる。競技者は蹲踞した後、主審の「構えて、手をついて待ったなし」の掛声の後に、競技開始までの準備姿勢が、相手の距離（間合い）や動作、相手との呼吸が合って、立ち合いが成立している。本研究は、勝敗のポイントとなる立ち合いの間合いの影響を解明するものである。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	研究実績の概要 令和6年～令和7年に実施された各アマチュア学生相撲大会の取り組みをビデオと写真で記録、各チームの道場及び練習場での取り組み情報を収集した。収集したデータは取り口別（突き押し相撲、四つ相撲）に分類し、その勝敗と立ち合いの出現種類の数、立ち合いでの初動の腰の高さと踏み込みの距離を測定し、立ち合いと間合いの勝敗関係が、競技力に影響を与えているか検討した。 調査結果 取り口別分類（突き押し相撲、四つ相撲）での立ち合い種類と勝敗、立ち合いでの間合いから初動の腰の高さと足幅の平均から、取り口別立ち合いの特徴を明らかにした。 全体のデータから、突き押し相撲の立ち合いは、ぶちかましが全体の58%の最多出現し、勝率も54%と高い。四つ相撲の立ち合いは、さし身が最多出現し全体の53%の割合で、勝率も49%で高かった。 突き押し相撲は、ぶちかましの強さが勝敗に関係していて、さし身が１つも出ていないのは、突き押しを得意としている選手は四つに組んでしまうと負けると認識していて、前頭部で相手の胸に突っ込み、相手も同じ姿勢であれば、頭同士がぶつかり合い、勢いで相手に先手をあたえず、そのまま攻め込んで勝率を高めている。 突き押し相撲の立ち合いの初動の腰の高さの平均は81cmで，四つ相撲の平均76cmより5cm高いのは、仕切りからスピードをつけ相手と組まずに、そのまま攻めるためで、上段の構え（高い腰の位置）から、素早く力を出し切ることが重要であり、足幅は平均27cmで四つ相撲の平均44cmより17ｃｍ短いのは、相手を攻めるときに態勢を崩さない（相手の変化に対応）工夫と、前進するスピード及びバランスを考えながら、前へ進む足と押しが、速すぎず遅すぎず、丁度良いタイミングでないと、効果的な押しは発揮されないため、腰の高さと足幅が程よい状態が勝率を高めている。 四つ相撲は、さし身を貫き通すのが勝敗に結びついていて、相手が出てくるのを下から受けて四つ身に組み、相手のマワシを引きつけ勝ちに繋げている。四つ身にはがっぷりになって勝負する方法と、相手にマワシを取らせないまま勝負する方法がるが、ポイントは腰を割って重心をと落とし、相手を揺さぶりながら腰を安定させれば、勝つ確率はかなり高くなる。 四つ相撲の立ち合いの初動の腰の高さの平均は76cmで、突き押し相撲の平均81cmより5cm低いのは、相手より低くすることで、相手の圧力に負けず前に出ながら、顎を相手の差し手側の肩口につけるためで、立ち合いが低いほうが優位になるからである。足幅は平均44cmで突き押し相撲の平均27cmより17ｃｍ長いのは、立ち合いで優位になるためで、瞬間的にマワシを取ることが出来れば、必ずしも勝負が決まってしまうわけではないが、少なくとも相手の攻撃をくじくことができ、次の攻防で有利になるからで、腰の高さと足幅が程よい状態が勝率を高めている。 まとめ 収集したデータを取り口別に立ち合いを抽出した結果、押し相撲はぶちかまし、四つ相撲はさし身が多数出現し勝率も高かった。立ち合いでの初動の腰の高さと足幅を測定した結果は、押し相撲は腰が高く足幅が短かったのは、仕切りからスピードをつけて相手と組まずに、そのまま攻めることで勝率を高めている。四つ相撲は腰が低く足幅が長いのは、相手を食い止めてマワシを引いて、優位な体勢からで勝率を高めている。また、立ち合いの初動の腰の高さと踏み込み距離は、取り口別分類（突き押し相撲、四つ相撲）各々の平均に近いほど勝つ確率が高く、誤差が大きいほど敗れる確率が高い。さらに、勝つための手段として積極的に前に出ていることがはっきりと提示された。このことから、押し相撲は立ち合いのぶちかまし技術、四つ相撲はさし身の技術を磨くことと、自身の立ち合いで程よい状態の間合を見つけ、前に出て勝負する運び足が、相撲の競技力向上に役立つと考える。